



第38期 中間事業報告書

平成14年4月1日～平成14年9月30日

大成ラミック株式会社

証券コード 4994

新工場が来年2月に稼働



工場完成予想図

生産能力が従来よりも35%アップ

株式上場時の公募増資による調達資金約15億円で、本社工場敷地内に新工場を建設しており、来年2月から第1ラインが稼働する予定です。これにより当社の生産能力は35%程度増加する見通しで、今後予想される受注増にも十分対応できる体制が整います。さらなる少ロット・短納期を推進するために、第1ラインの稼働から、その後順次第2、第3ラインまで、受注・販売を見合わせた上で増設する予定です。



工場内完成イメージ



目次

- 大成ラミック・ヘッドライン・・・ 1
- 社長からのメッセージ・・・ 2
- 特集：大成ラミックの成長戦略・・・ 3
- ひとめでわかる大成ラミック・・・ 5
- 財務ハイライト(単体)・・・ 7
- 単体財務諸表・・・ 8

表紙の絵 洋画家八十山和代(やそやまかずよ)氏は、故郷石川県と京都にアトリエを構え、洋画では珍しく竹をモチーフとした作品を描き続けています。東京、京都、ニューヨーク、中国、ブラジルなどで次々と個展を開催。サロン・ド・バリ正会員、竹文化振興協会会員など幅広く活躍中です。



代表取締役社長 木村 登

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、第38期中間事業報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期の業績

当中間期におけるわが国経済は、依然として景気の低迷が続き、当軟包装業界においても総じて受注・生産が伸び悩んでおります。一方、当社の主力得意先である食品業界ではさまざまな問題が相次ぎ、消費者の食に対する信頼が揺らぎつつあります。

このような状況のもと、当社はフィルムの高品質と少ロット多品種・短納期、低コスト等の差別化に加え、高速液体自動充填機「NT-DANGAN」を

強みに、大手食品、調味料、醸造メーカーなどの全国の液体充填ユーザーへの積極的な深耕と全方位営業を重ねてきました。この結果、売上高は67億24百万円（前年同期比10.1%増）、経常利益は10億24百万円（同14.3%増）、中間純利益は5億72百万円（同2.1%増）と、中間期としては過去最高の増収増益を達成しました。

今後の経営戦略

包装フィルム部門では、「食」の安全・衛生面における「品質保証」体制をさらに徹底するとともに、高付加価値商品・差別化戦略による同業他社との利益なき競合を避け、独自の製造技術とコストダウンを一段と強化し、来年2月から稼働する本社新工場による増産能力をフルに活用して利益ある成長を目指して参ります。一方、包装機械部門では「NT-DANGAN大容量・大々容量機」、ノンストップで連続生産ができる「ノンテープ・ジョイント」「自動フィルム繋ぎ装置」などの新製品を開発し、他社の追従を許さないトップブランドとしての地位を確立していきます。

今後とも、業績の向上と企業価値の増大に向けて取り組む所存ですので、株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年12月
代表取締役社長

木村 登

競争優位性を生かして市場シェアを拡大

包装フィルムと自動充填機の両方を手掛けている唯一のメーカーとして、これまでにトップブランドとしての地位を築いてきた大成ラミック。

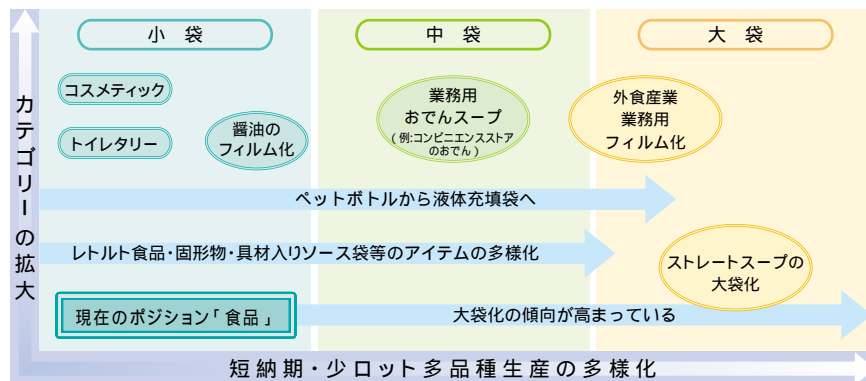
今回は、今後も成長を続けるために当社のいくつかの戦略をご紹介します。

1 営業戦略

ビジネスモデルを生かして、市場を開拓

液体包装フィルムの市場規模は約250億円、当社の国内シェアは約3割と推定され、市場全体では核家族化や少子化といった社会背景から、コンビニエンスストア、弁当、惣菜向けを中心に、年5%程度の安定した成長を遂げていると見られています。しかし、液体包装フィルムは種類が非常に多く、1アイテム自体のロットが少ないほか、短納期を求められるケースが多く、生産性の向上が働きにくい業界といえます。

市場環境と販売戦略図



その点、当社は業界内では唯一の包装フィルムと高速自動充填機を併せて販売するという独自の営業戦略によって全国各地から集めてきた少ロットの受注を大口ロット並みのコストで作り上げる生産技術を保有しています。こうした競争優位性を生かして、今後も液体包装フィルム市場でのシェアの拡大を図っていきます。

2 新製品、研究開発

ロール切り替え時のロスの発生を解消

当社は、新製品の研究開発を熱心に取り組んでいます。その一つが、来期から販売予定の「ノンテープ・ジョイント」と「自動フィルム繋ぎ装置」です。

これらの包装フィルムの接合方法は、従来の粘着テープを用いることなくフラットに接合できるため、充填時において接合部分からの液漏れが発

自動フィルム繋ぎ装置



生せず、機械を止めることなく連続運転が可能となります。

これにより、フィルムの繋ぎ時に発生するロスを大幅に削減できるとともに、製品の歩留まりが格段に改善され、ユーザーにおける生産コストの低減と生産性および品質の向上に大きく貢献します。

3 中・大袋への需要増に対応

新たな分野の市場を開拓

最近、調味料などの液体小袋への需要以外に、レトルト食品の具材やトイレタリー製品の詰め替え用パックなど、中・大袋への需要が増加しています。また、従来の小容量フィルムに加えて、業務用の大容量フィルムの引き合いも増えています。

そこで当社は昨年9月から、容量の大きい液体や粘体などでも高速で自動充填できる中・大袋化対応の包装フィルムや自動充填機の販売も手掛けています。

現在、食品用の液体小袋市場での当社のシェアは包装フィルムと自動充填機の両方で拡大傾向を続けており、また新たな成長が期待できます。



TOPICS

「東京パック2002」に出展

自動フィルム繋ぎ装置などを実演

当社は、10月1日から5日までの5日間、東京・有明の東京ビッグサイトで開催された「2002東京国際包装展(東京パック2002)」に出展しました。

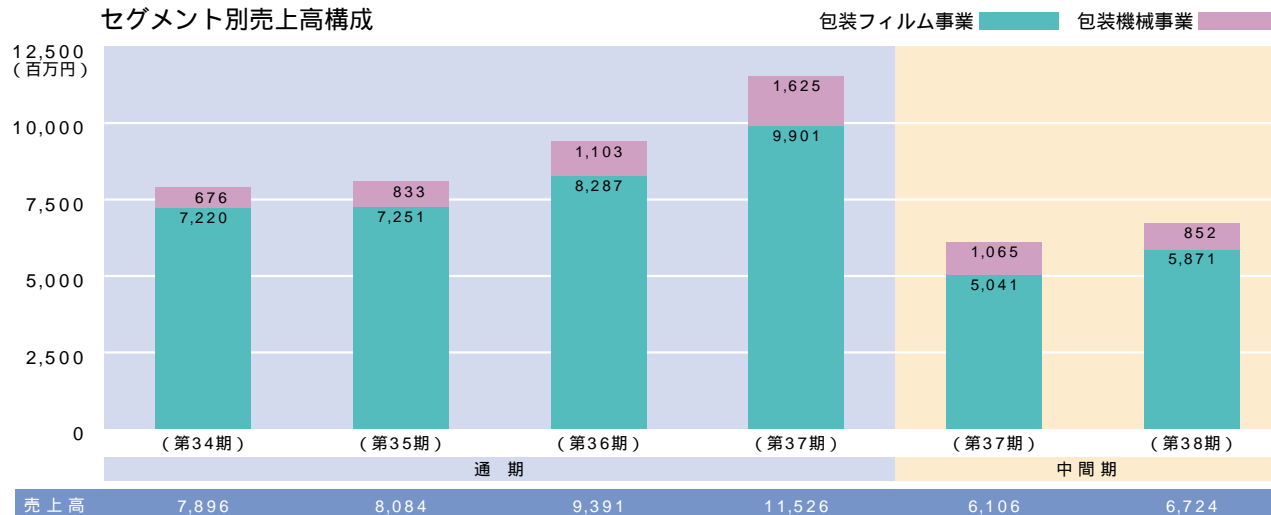
ブース内では、当社が誇る液体・粘体用包装フィルムと高速自動充填機「NT-DANGAN」シリーズをはじめ、来期から販売予定の「ノンテープ・ジョイント」や「自動フィルム繋ぎ装置」などの多彩なバリエーションに富んだ商品や周辺機器を展示。また、充填工程を実演することにより、当

社製品の品質と性能の高さを多くの来場者にご覧いただくことができました。



ひとめでわかる大成ラミック

セグメント別売上高構成



包装フィルム事業

【事業内容】主に即席麺やお持ち帰り弁当などに別添調味料として付いてくる液体スープ、醤油、ソース、納豆のたれ、練りわさび・からし、ドレッシング等を入れるラミネートフィルムやレトルト食品用パウチ、トイレタリー、コスメティック関連製品の詰替用パックなどの開発・製造・販売を行っています。

主力製品である液体・粘体自動充填用フィルム「XA-S」「XA-E」などは、市場のニーズに対応する高品質・短納期を武器に、引き続き順調に売上げを伸ばしました。

とくに当上半期の前半は、今年4月から実施された「アレルギー表示」「プラマーク表示」などの包装資材の表示変更に伴う改版・新版需要が旺盛に発生しました。また、コンビニエンスストアの「そば弁当」をはじめ、夏用の冷たい食品・お弁当類に添付されている麺つゆやドレッシングの実需シーズンにあたり、当社シェアの拡大が一段と進みました。しかし、後半は天候不順により夏物商

品の追加発注に一部まだら模様の状況もありましたが、秋冬ものの新版の取り込みなど、活発な営業活動を進めました。

以上の結果、包装フィルム事業の当中間期の売上高は、58億71百万円（前年同期比16.5%増）となりました。



包装機械部門

【事業内容】当社と日本精機株式会社が共同開発した高速液体自動充填機を、液体・粘体自動充填フィルムとともに食品メーカー向けなどに販売を行っています。充填速度の高速化と安定化を重視した自動充填機は、「NT-DANGAN」シリーズとして「からしや納豆たれ等の少量パック専用の5・10分割機」「ストレートつゆや業務用パック等の大容量専用機」などの開発・販売を行っています。

高速液体自動充填機「NT-DANGAN」につきましては、その高い生産性と豊富な周辺機器による自動化ラインが評価され、大手食品・調味料メーカーを中心に計画通りの実績を上げることができました。しかし、前期に続き当中間期においても食品業界のさまざまな問題により、各企業は先行きの不透明感をさらに強め、設備投資計画をぎりぎりまで控える傾向がありました。

以上の結果、包装機械事業の当中間期の売上高は、8億52百万円（前年同期比20.0%減）となりました。



高速液体自動充填機「NT-DANGAN TYPE」

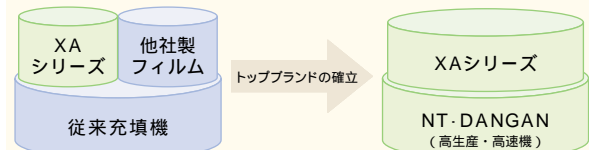
ビジネスモデル

「NT-DANGAN」が包装フィルムの販売を促進

当社は、包装フィルムと自動充填機の両方を手掛けている業界内では唯一のメーカーです。競合他社の包装機械と比べて圧倒的な生産性を持つ高速液体自動充填機「NT-DANGAN」を販売し、その相乗効果によって消耗品である「XA」シリーズなどの液体・粘体自動充填用フィルムの拡販につなげるという事業戦略を展開しており、これらのシナジー効果が新規開拓やシェアの拡大に大きく貢献しています。

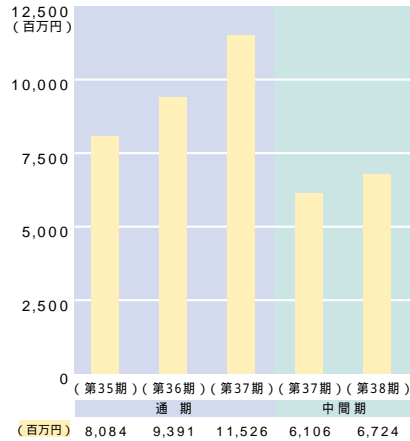
最新鋭の自動充填機「NT-DANGAN TYPE」では、コンピュータ制御により、ラインスピードが1分間に25m（最大500個分）という高速生産を実現しており、従来機の約5倍の生産性を上げることが可能です。そのため、自動充填機の販売台数に付随して包装フィルムの販売も伸びており、今後も「NT-DANGAN」の設置台数の増加に合わせた包装フィルムの売上げ増加が期待できます。

トータルソリューション図

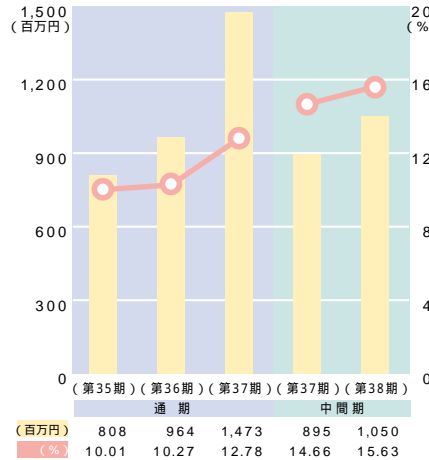


財務ハイライト(単体)

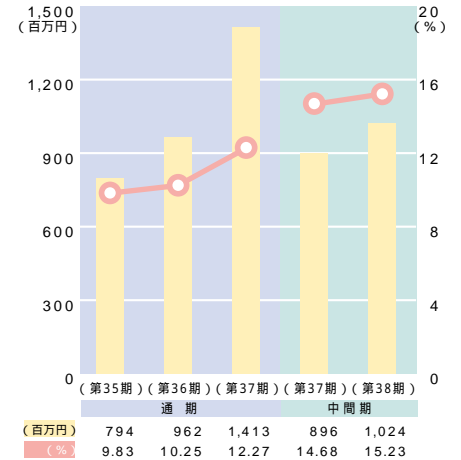
売上高



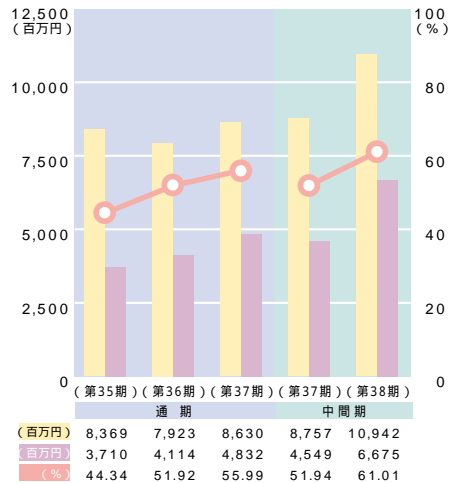
営業利益 / 売上高営業利益率



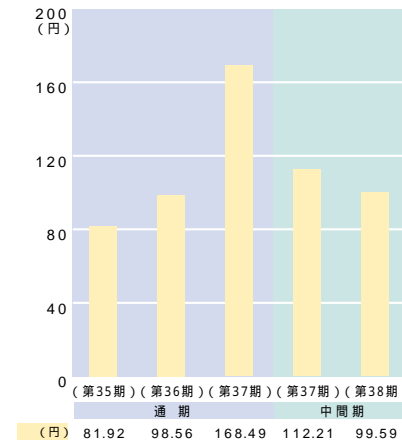
経常利益 / 売上高経常利益率



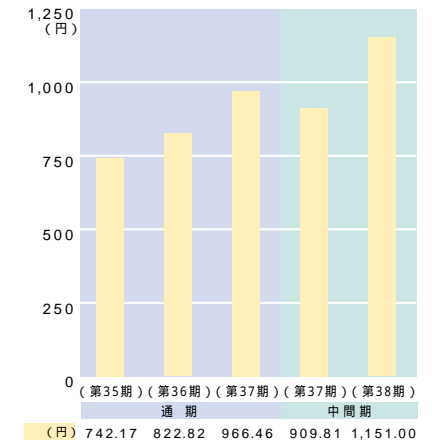
総資産 / 株主資本 / 株主資本比率



一株当たり当期利益



一株当たり株主資本



貸借対照表

(単位:百万円)

科目	第38期中間期 (平成14年 9月30日現在)	第37期 (平成14年 3月31日現在)	第37期中間期 (平成13年 9月30日現在)
資産の部			
流動資産	6,773	5,386	5,521
現金及び預金	1,727	566	651
受取手形	1,558	1,457	1,611
売掛金	2,303	2,074	2,033
たな卸資産	1,025	1,163	1,085
その他	164	127	141
貸倒引当金	5	2	3
固定資産	4,169	3,243	3,236
有形固定資産	3,592	2,681	2,655
建物	898	923	965
機械及び装置	579	611	530
土地	844	844	844
その他	1,270	302	315
無形固定資産	124	113	105
投資その他の資産	452	448	475
投資有価証券	236	234	240
その他	233	225	247
貸倒引当金	16	11	11
資産合計	10,942	8,630	8,757

科目	第38期中間期 (平成14年 9月30日現在)	第37期 (平成14年 3月31日現在)	第37期中間期 (平成13年 9月30日現在)
負債の部			
流動負債	4,046	3,538	3,913
買掛金	2,021	1,925	2,084
短期借入金	—	530	799
一年内返済予定長期借入金	70	70	70
未払金	1,249	368	300
未払法人税等	457	434	449
賞与引当金	147	115	124
その他	101	94	84
固定負債	220	259	295
長期借入金	67	102	137
退職給付引当金	98	102	105
役員退職慰労引当金	53	54	52
負債合計	4,267	3,797	4,208
資本の部			
資本金	1,629	1,000	1,000
資本準備金	—	1,243	1,243
利益準備金	—	165	165
その他の剰余金	—	2,427	2,145
資本剰余金	2,117	—	—
利益剰余金	2,933	—	—
その他有価証券評価差額金	4	2	4
資本合計	6,675	4,832	4,549
負債及び資本合計	10,942	8,630	8,757

注：1．記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

2．有形固定資産の減価償却累計額 3,695百万円

資産

総資産は、前期末比23億12百万円増の109億42百万円となりました。これは東証二部上場時に実施した公募増資による現金及び預金が増加したことと、本社新工場建設に伴い建設仮勘定が9億52百万増の9億77百万円となったことが主な要因です。

負債 / 株主資本

負債合計は前期末比4億69百万円増加し、42億67百万円となりました。なお、有利子負債は5億65百万円減少し、1億37百万円となりました。株主資本は、東証二部上場時に公募増資を実施したことなどにより18億43百万円増加し、66億75百万円となりました。

単体財務諸表

損益計算書

(単位:百万円)

科目	第38期中間期 (平成14年4月1日 - 平成14年9月30日)	第37期中間期 (平成13年4月1日 - 平成13年9月30日)	第37期 (平成13年4月1日 - 平成14年3月31日)
売上高	6,724	6,106	11,526
売上原価	4,798	4,431	8,460
売上総利益	1,925	1,675	3,066
販売費及び一般管理費	874	779	1,592
営業利益	1,050	895	1,473
営業外収益	9	12	18
営業外費用	36	12	77
経常利益	1,024	896	1,413
特別利益	0	94	94
特別損失	24	6	32
税引前中間(当期)利益	1,000	984	1,475
法人税、住民税及び事業税	457	448	655
法人税等調整額	29	25	21
中間(当期)利益	572	561	842

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

売上高の内訳

(単位:百万円)

科目	第38期中間期 (平成14年4月1日 - 平成14年9月30日)	第37期中間期 (平成13年4月1日 - 平成13年9月30日)	第37期 (平成13年4月1日 - 平成14年3月31日)
包装フィルム事業	5,871	5,041	9,901
包装機械事業	852	1,065	1,625
販売台数(台)	34	45	68
売上高	6,724	6,106	11,526

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

収益構造

当中間期の売上高は前年同期比10.1%増の67億24百万円となりました。販売費及び一般管理費は同12.2%増の8億74百万円となりました。主な要因は、売上増加による物流費用増(前年同期比22百万円増)と、従業員の採用・人材派遣の採用や賃金ベースアップなどによる労務費増(同31百万円増)が主な増加理由です。

その結果、営業利益は同17.3%増の10億50百万円となり、売上高営業利益率は同0.9ポイント増の15.6%となりました。経常利益は同14.3%増の10億24百万円となり、売上高経常利益率は同0.5ポイント増の15.2%となりました。

利益配分

当社は、利益配分と株主資本当期利益率の向上を経営目標の重要ポイントと位置付けております。配当性向につきましては25%を目標とし、これを維持・向上させたいと考えております。

一方、中長期的な成長戦略を展開していくため、企業体質の強化や事業規模拡大のため内部留保の充実にも努めていきます。

以上のような方針のもと、当中間期の一株当たり配当を20円といたしました。なお、期末配当につきましては25円(年間配当45円)を計画しております。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第38期中間期	第37期中間期	第37期
	(平成14年4月1日～ 平成14年9月30日)	(平成13年4月1日～ 平成13年9月30日)	(平成13年4月1日～ 平成14年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	641	205	180
投資活動によるキャッシュ・フロー	488	319	176
財務活動によるキャッシュ・フロー	706	230	534
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-	-
現金及び現金同等物の増減額	859	115	176
現金及び現金同等物の期首残高	548	725	725
会社分割に伴う現金及び現金同等物の減少額	-	0	0
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	1,407	609	548

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

通期の見通し

(単位:百万円)

科目	第38期予想 (平成14年4月1日～ 平成15年3月31日)
売上高	12,820
包装フィルム事業	11,200
包装機械事業	1,620
営業利益	1,765
包装フィルム事業	1,608
包装機械事業	157
経常利益	1,741
当期利益	983
一株当たり当期利益(円)	169.58
一株当たり配当金(円)	45.00
	うち期末25.00円

注：1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

2. 上記の予想は、第38期中間決算発表日時時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、さまざまな要因の変化により実際の業績は、これらの予想数値と異なる可能性があります。

キャッシュ・フロー計算書

営業活動の結果得られた資金は、主に売上債権の増加やたな卸資産の減少などにより、前年同期比8億46百万円増の6億41百万円となりました。

投資活動の結果使用した資金は、本社新工場建設に伴う有形固定資産の取得による支出、及び定期預金の預入れによる支出により、前年同期比8億7百万円増の4億88百万円となりました。

財務活動の結果得られた資金は、東証二部上場時の公募増資による株式発行による収入が14億81百万円、また短期借入金及び長期借入金の返済による支出などにより、前年同期比9億36百万円増の7億6百万円となりました。

以上の結果、当中間期における現金及び現金同等物中間期末残高は、前年同期比7億98百万円増の14億7百万円となりました。

通期の見通し

通期の業績見通しについては、前期決算発表時と変更はなく、売上高は128億20百万円、経常利益は17億41百万円、当期利益は9億83百万円を見込んでおります。

大成ラミック株式会社

会社概要 (平成14年9月30日現在)

社名 大成ラミック株式会社 (Taisei Lamick Co.,Ltd.)
 所在地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1 〒349-0293
 代表者 代表取締役社長 木村 登
 設立 昭和41年3月22日
 資本金 16億29百万円
 事業内容 プラスチックフィルムを中心とした液体・粘体自動充填用フィルム「XA」シリーズ等の開発製造販売
 高速液体自動充填機「NT-DANGAN」、周辺機器の開発販売

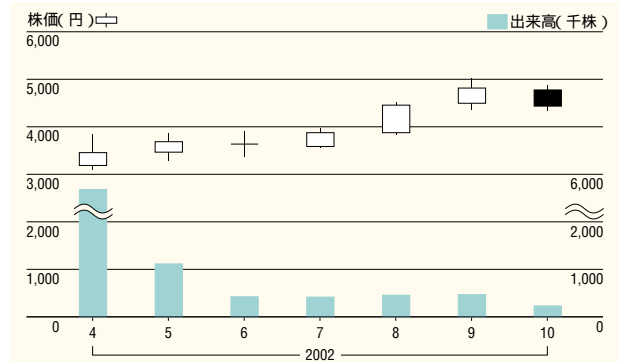
社員数 247名 (男子212名 女子35名)
 主な事業所 本社・工場 (埼玉県南埼玉郡白岡町)
 営業所 東北、仙台、名古屋、福岡

株主メモ

決算期 3月31日
 定時株主総会 毎年6月
 利益配当金 毎年3月31日
 受領株主確定日 中間配当金 毎年9月30日
 1単元の株式数 100株
 名義書換代理人 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 住友信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
 住友信託銀行株式会社 証券代行部
 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
 住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (郵便物送付および電話照会先) 住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (住所変更等用紙のご請求) 0120-175-417
 (その他のご照会) 0120-176-417

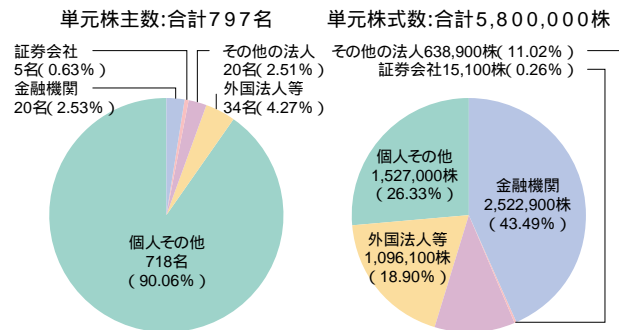
同取次所 住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
 公告掲載紙 日本経済新聞

株価 / 出来高の推移



所有者別株式分布状況 (平成14年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数 20,000,000株
 発行済株式総数 5,800,000株
 株主数 797名



日本民族最古の包装資材は、主として竹の皮が用いられていました。言い換えれば、我が国包装文化の原点であります。竹の子は長じて竹になり、成竹は強靱性・柔軟性に最も優れ当社の主力商品である各種ラミネート製品に求められる強靱且つ柔軟性を併せもつ条件に適合するものであります。

お問い合わせ 総務部 IR担当: TEL 0480-97-0224 FAX 0480-97-0204
 ホームページ <http://www.lamick.co.jp/>

本報告書は、100%再生紙を使用しています。